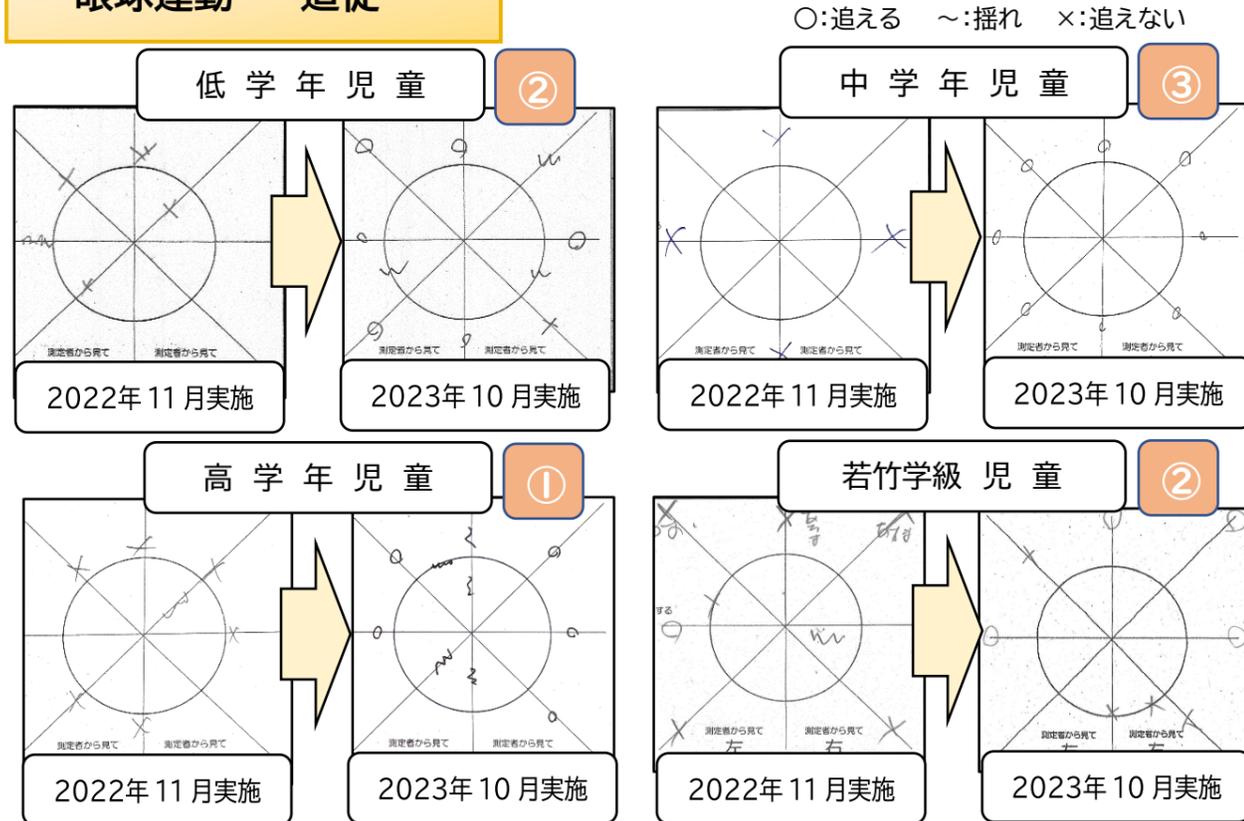


# 5 研究の成果と課題

## ■ 児童の変容 ～町二小アセスメントから～

### 眼球運動 ～追従～



○2022年11月の段階で、指標を眼で追うことがほぼできなかった児童は89名(405名中)でした。その中の観察対象児について1年後にチェックしたところ、ほとんどの児童に改善が見られました。その内容は、上記の①のように全く追えなかった児童が揺れを起こしながらも追えるようになってきた、②のように方向によっては安定して追えるようになった、③のように全ての方向について改善が見られた、となっています。

### DEM(読書時の跳躍性眼球運動を測定するテスト)

	2022年11月 縦読み速度	2023年10月 縦読み速度	タイム差	2022年11月 横読み速度	2023年10月 横読み速度	タイム差
現2年生	46.7	37.1	-9.6	54.8	42.9	-11.9
現3年生	36.6	33.5	-3.1	45.7	38.0	-7.7
現4年生	32.8	29.6	-3.2	37.6	32.8	-4.8
現5年生	30.3	27.5	-2.8	34.4	29.9	-4.5
現6年生	29.0	23.3	-5.7	30.3	25.9	-4.4
若竹	56.6	44.6	-12.0	62.0	42.1	-19.9

※数値は学年平均、単位は秒

○初年度と1年後の結果を比較すると、縦読み、横読みともに、全ての学年において読む速度が速くなりました。

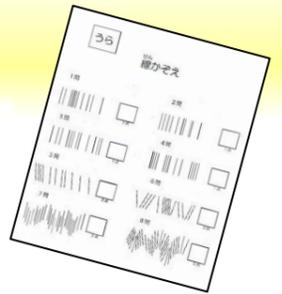
○ほとんどの学年においても縦読みよりも横読みの方が、平均秒数が縮まっています。横読みのテストは、数字と数字の間の幅が不規則なことから、跳躍の力がより伸びたと言えます。

○現2・3年生の伸び率が大きいことから、ビジョントレーニングは少しでも早い時期に始めることが有効であると考えられます。

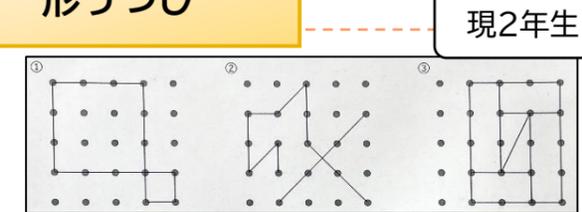
○若竹学級の伸び率が著しいことは、ビジョントレーニングの実回数や個に応じた実施形態が可能だったことが考えられます。

### 線かぞえ

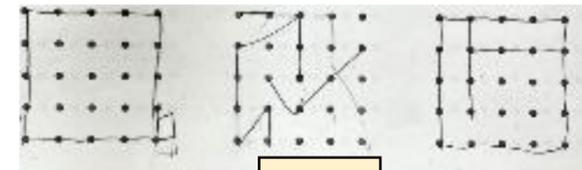
○ほとんどの学年で、2回目の正答率の平均が1回目を上回る結果となりました。その変化は、6年生の78.8%から86.3%が最も大きく、7.5ポイント上昇でした。問題数が8つしかないことと、もともと8割近くの正答率だったことを考えると、平均でこのポイントの上昇は十分な数値と言えます。中には、10点から20点(満点)に上がった児童がいます。



### 形うつし



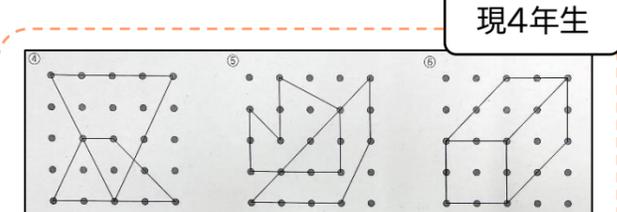
2022年11月



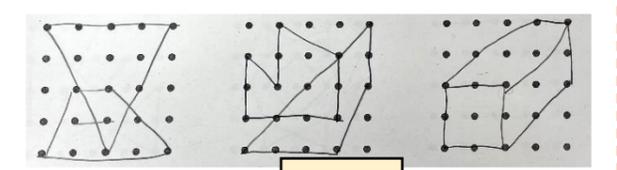
2023年10月

○2022年には、点の位置を正しく捉えられませんでした。約1年後には、ほぼ正しく結べるようになりました。

現2年生



2022年11月

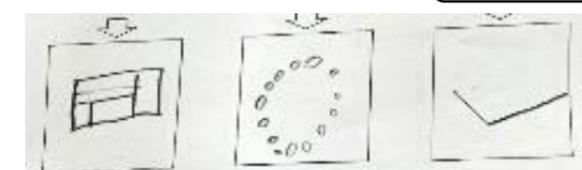


2023年10月

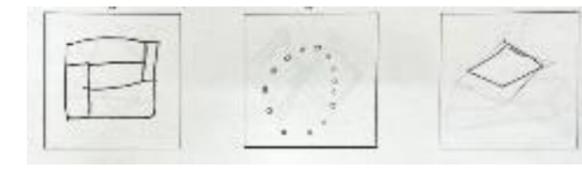
○大体の形をとらえることができています。一番右の図形では、斜めの線を正確に捉えられるようになってきています。

現4年生

2022年11月



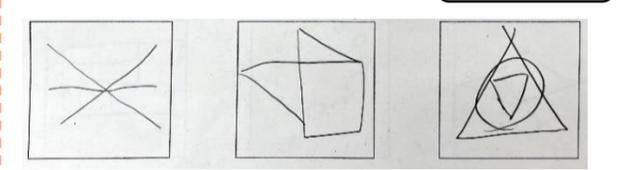
2023年10月



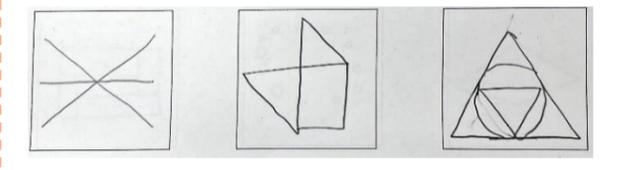
○四角形の数や丸の大きさ、形など、より正確に写すことができるようになりました。ビジョントレーニングの効果で視空間認知の力が向上したと考えています。

現2年生

2022年11月



2023年10月



○線の長さや形の大きさを整えて図形が描けるようになりました。特に右の図形では、三角形と円が重なる点や長さを意識して描くことができました。

現4年生

